

成田赤十字病院を受診された患者さんへ

当院心臓血管外科では下記の臨床研究を実施しています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用はまたは提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	逆行性 Stanford A 型大動脈解離に対するオープンステントグラフト法を用いた全弓部大動脈瘤人工血管置換術の早期・中期成績の検討
当院の研究責任者	金行 大介 (心臓血管外科)
他の研究機関および各施設の研究責任者	船橋市立医療センター 心臓血管外科 部長 茂木健司
本研究の目的	<p>下行大動脈瘤に entry を持ち順行性に解離の進展がおよぶ Stanford B 型大動脈解離の治療は降圧療法を基本とする内科的な保存的加療による良好な成績が報告されているが、一部に逆行性に解離が進展し上行・弓部大動脈領域に解離が進展することが知られている (逆行性 Stanford A 型大動脈解離)。過去の報告においては偽腔内が血栓化している場合には外科的治療介入よりも保存的加療のみで予後が良好との報告がされているが、その数は少なく未だ適切な治療介入の方法、時期については不明な点が多い。偽腔が開存している場合は Stanford A 型大動脈解離の治療に則り、早期の手術介入が基本とされ、下行大動脈瘤の entry 閉鎖のためにこれまで全弓部置換術+エレファントグラフト法が行われてきた。近年、オープンステントグラフト法の普及により、この病態に対してもエレファントグラフト法に代わり、オープンステントグラフト法の使用が行われており、従来の方法と比べて良好な治療成績が期待されているが、その報告は少ない。</p> <p>当院における逆行性 Stanford A 型大動脈解離に対するエレファントグラフト法およびオープンステントグラフト法を用いた全弓部大動脈瘤置換術後の早期および中期成績を明らかにし、この病態に対する至適な外科的治療介入方法のさらなるエビデンス構築を目的とする。</p>
研究期間	当院倫理委員会承認日から令和 3 年 12 月 31 日
研究の方法	- 対象となる患者さん 当施設において 2012 年 1 月-2019 年 12 月の間に逆行性 Stanford

	<p>A 型大動脈解離に対して全弓部大動脈瘤置換術を受けた 18 歳以上の患者さん。大動脈疾患の病因、同時施行手術の種類は問わない。</p> <p>- 利用する情報</p> <p>既存情報（性別、年齢、既往歴、合併症、手術情報、CT 検査データ、術後合併症等）を収集する。</p>
試料/情報の他の研究機関への提供および提供方法	試料/情報の他の研究機関への提供は行わない。
個人情報の取り扱い	連結可能匿名情報として患者情報を取り扱う。患者特定に必要な対応表は病院内のみで厳重に管理する。データ管理・分析、その成果物については、患者個人が特定される形での公表は行わない。
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係等にある企業等はありません。
お問い合わせ先	<p>成田赤十字病院 心臓血管外科 金行 大介</p> <p>住所：千葉県成田市飯田町 90 番地 1</p> <p>電話：0476-22-2311（代表）</p>